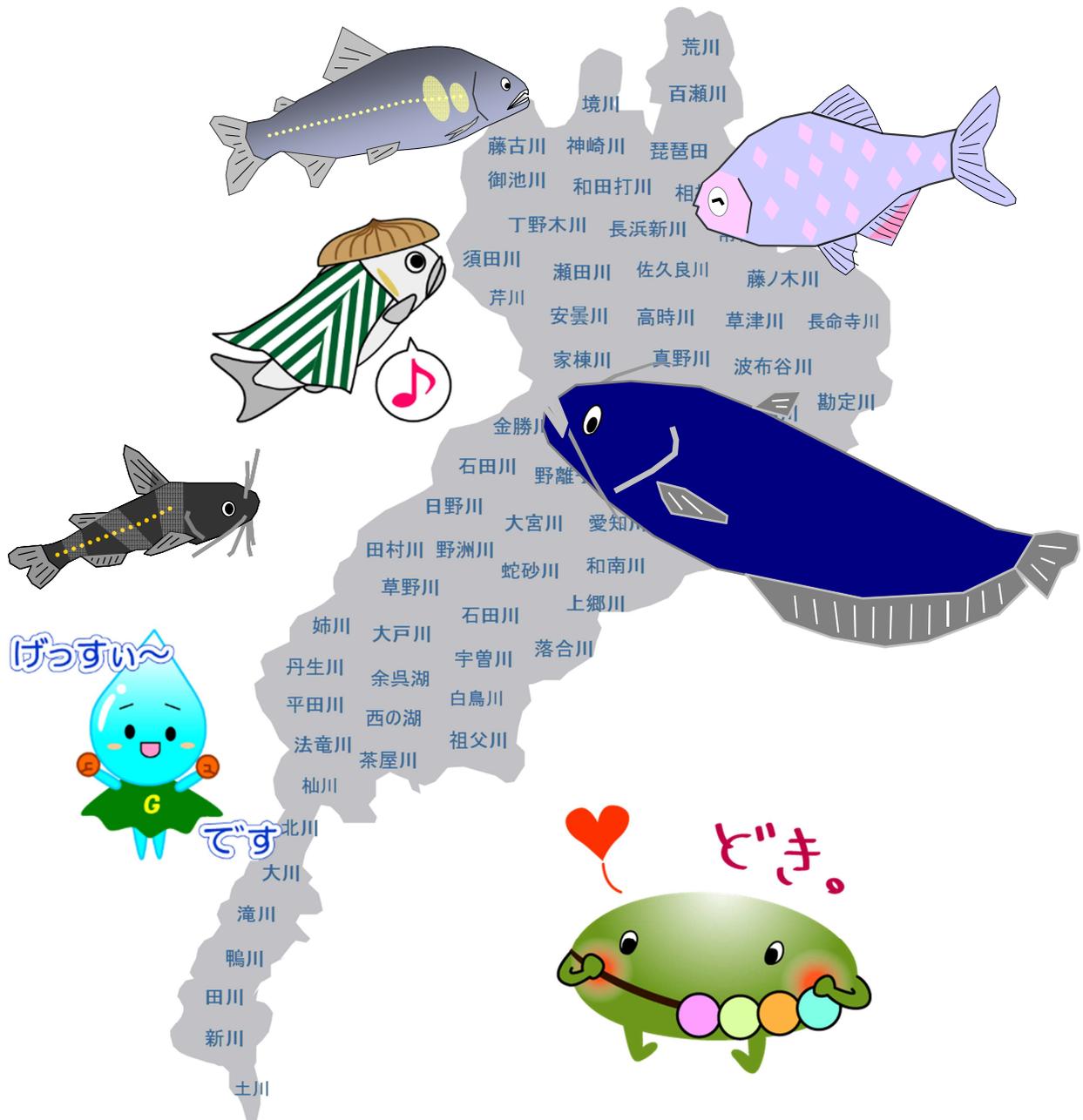


第 10 回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：平成 29 年(2017 年)2 月 4 日(土) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)

場所：滋賀県危機管理センター 1階 各会議室

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県

後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

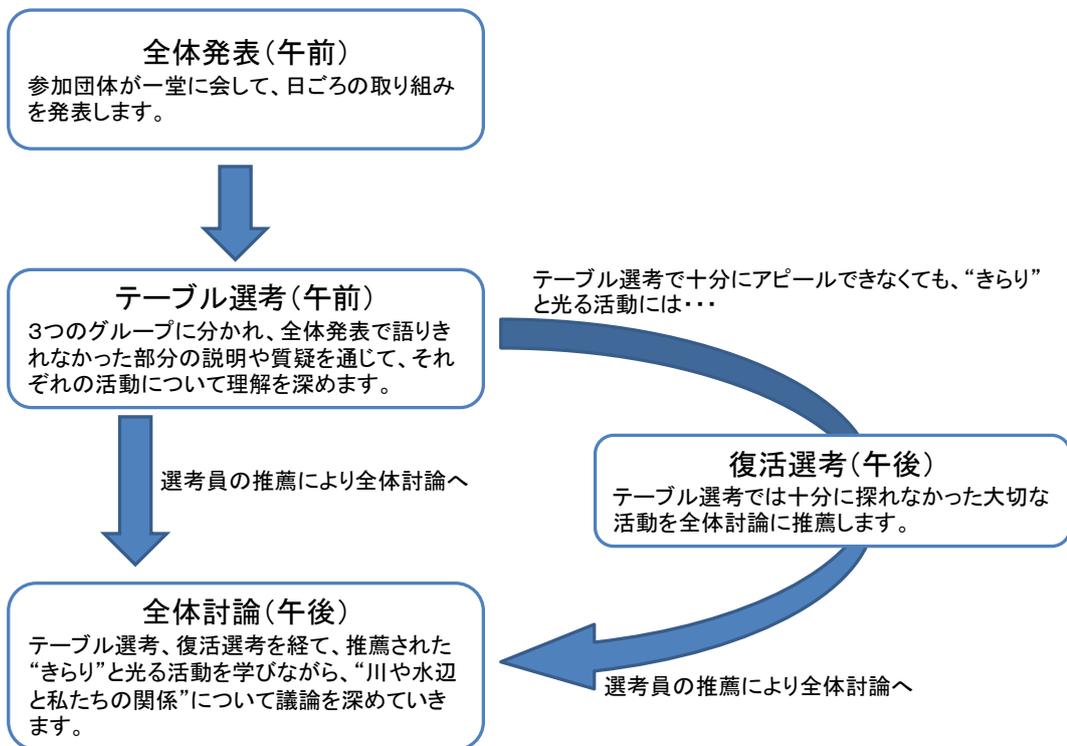
内容

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	1
2. 大会プログラム	2
3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	3
(1) 「公開選考会」の意味	3
(2) 公開選考会の進め方について	3
(3) 選考基準	4
(4) ポスターセッション	5
(5) 表彰	5
4. 参加団体一覧・テーブル	6
5. テーブル別各団体活動位置図	7
6. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）	9
テーブルA	9
テーブルB	10
テーブルC	11
7. 全体討論 選考員	12
8. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会	13
9. 参加団体活動概要	14
A-1 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト	14
A-2 琵琶湖河川レンジャー	15
A-3 立命館守山中学校 Sci-Tech	16
A-4 一般社団法人 ClearWaterProject	17
A-5 大見新村プロジェクト	18
B-1 滋賀県長浜土木事務所河川砂防課	19
B-2 渋川小学校 滋賀の郷土料理学習実行委員会	20
B-3 総合地球環境学研究所栄養循環プロジェクト	21
B-4 NPO 法人瀬田川リバプレ隊	22
C-1 滋賀県立甲南高等学校 総合学科 バイオとかがく系列	23
C-2 釣り人による清掃活動	24
C-3 滋賀県教育委員会事務局教育総務課企画室	25
C-4 NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	26
10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）	27
MEMO 欄	27

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時 : 平成 29 年 (2017 年) 2 月 4 日 (土) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)
- 場所 : 滋賀県危機管理センター 1 階 各会議室
- 主催 : 淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県
- 後援 : 滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会



淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づくマザーレイクフォーラムとの連携事業です。



淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第 34 条に基づく県民相互の連携の支援事業です。



2. 大会プログラム

時間	内容
9:10 9:30	○受付 ○選考委員・事務局ミーティング（進め方、選考方法等）
9:30 9:50	○開会、ガイダンス 大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
9:50 10:50	○全体発表 全体会場で活動を発表します。（発表時間各3分）
10:50 11:50	○テーブル選考 1)3つのテーブルに分かれます。 2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。（テーブルごとに2団体） 3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
11:50 12:10	○テーブル選考結果発表 大会議室で各テーブルから推薦された団体（計6団体）を発表します。
12:10 13:00	お昼休憩  ※会議室内では飲食できません。お弁当持参の方は、エントランスロビーか、ご案内する昼食場所（県庁北新館3階 多目的室3）で昼食を摂ってください。
13:00 13:30	○復活選考 1)時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。 2)復活選考から全体討論に進むのは3団体です。 ○ポスターセッション 参加者全員で、応援したい！活動に、応援メッセージカードを贈ります。
13:30 16:15	○全体討論 1)3分間で活動内容を発表、5分間の質疑 2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:15 16:30	○各賞の発表・表彰式 1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰 2)「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰 3)「応援の花咲いた賞」の表彰

3. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 「公開選考会」の意味

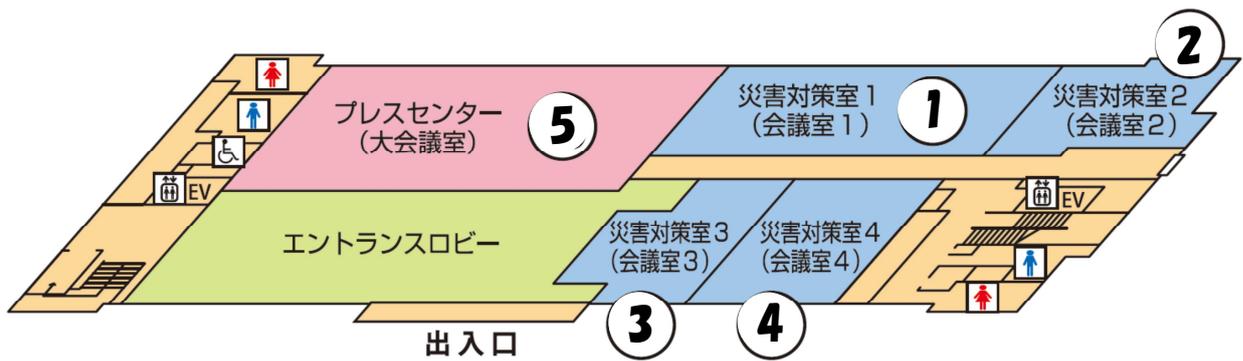
- 淡海の川づくりフォーラムは、公開選考会という仕組みを使って、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えることが目的です・・・受賞団体の選考は、手段であって目的ではありません。
- お互いの発表を聞き、選考員や参加の皆さんそれぞれの視点を通して、活動の「よいとこさがし」をしてください。
- 14 ページから、今回参加の皆さまの活動概要を掲載しています。ページの下側に、「よいとこ探しキーワード メモ」の欄を設けています。ぜひ、「よいとこキーワード」をメモして、議論に参加してください。
- 質疑応答や討論時間を使って行われる「よいとこさがし」は、“川や水辺と私たちのいい関係”について考えを深める時間です。

(2) 公開選考会の進め方について

- 選考会は、全体発表→テーブル選考→復活選考→全体選考(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- 全体発表は、参加団体が一堂に会して、日ごろの取り組みを発表します。全体発表は1団体3分とし、質疑は行いません。
- テーブル選考は3グループ、1テーブル4~5団体に分かれ、全体発表で語りきれなかった部分の説明や質疑を通じて、それぞれの活動について理解を深めます。発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体)

テーブル	テーブル選考会場
テーブルA	大会議室 次頁図⑤
テーブルB	会議室2 次頁図②
テーブルC	会議室3 次頁図③

- テーブル選考で推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。復活選考では、選考員が大会議室に掲示された各団体のパネルを見て回りますので、時間内で自由に選考員に活動内容をアピールしてください。復活選考から全体討論に進むのは3団体です。
- 全体選考に進んだ団体は、再度、大会議室で発表をしていただきます。3分間で活動内容を発表した後、5分間の質疑の時間を設けます。
- 選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
- 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。



(3) 選考基準

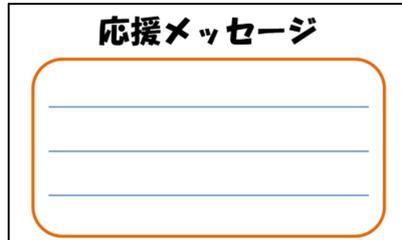
- 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 例えば…
 - ・この発想はなかった！
 - ・やれるところからやりはじめてるのが、イイね！ など
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
 例えば…
 - ・水辺が地域を元気にするね！
 - ・継続は力だ！ など
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
 例えば…
 - ・え、そんな人たちも参加しているんだ！
 - ・その連携は面白い！ など
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価
 例えば…
 - ・そんなことが出来るんだ！
 - ・すこしの工夫でずいぶん違うね～！ など



(4) ポスターセッション

- 今回は、復活選考とあわせて「ポスターセッション」を行います。
- 参加者全員に「応援メッセージカード」を1枚ずつお配りします。
- 大会議室に掲示された各団体のパネルを見て、応援したい！と思われた活動に、「応援メッセージカード」を贈りましょう！



(5) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク 21 計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【応援の花咲いた賞】

- 上記選考基準とは別に、ポスターセッションで会場からの応援メッセージが一番多かった団体を表彰します。
- 全ての参加団体が受賞の候補となります。
- 他の賞と重複して受賞する可能性もあります。

4. 参加団体一覧・テーブル

●全体発表はA-1から順番に行います。

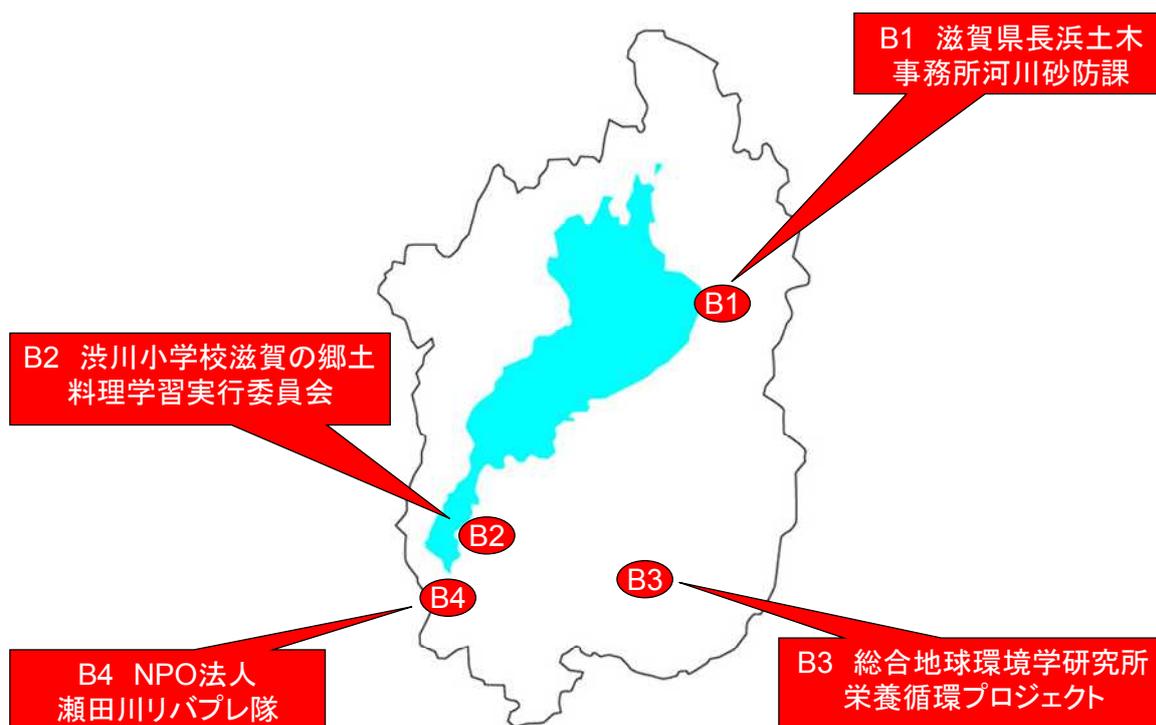
	グループ名	湖沼・河川・活動地域等	活動内容
テーブルA	A-1 家棟川・童子川・中ノ池 川にビワマスを戻すプロジェクト	家棟川	ビワマスが遡上・産卵・繁殖できる環境の再生
	A-2 琵琶湖河川レンジャー	瀬田川、琵琶湖	地域と川とのかかわりを記録し、伝えていく活動
	A-3 立命館守山中学校 Sci-Tech	野洲川	野洲川におけるヨシ帯の質的調査活動・環境保全
	A-4 一般社団法人 ClearWaterProject	全国	流域にかかわる活動をしている団体の中間支援
	A-5 大見新村プロジェクト	大見川（安曇川源流域）	安曇川源流域での廃村活用
テーブルB	B-1 滋賀県長浜土木事務所河川砂防課	天野川	米原市天野川ビワマス遡上プロジェクトの一環として柵田式魚道の設置
	B-2 渋川小学校滋賀の郷土料理学習実行委員会	琵琶湖	滋賀の郷土料理学習
	B-3 総合地球環境学研究所栄養循環プロジェクト	野洲川・佐治川・甲賀市小佐治地区	川にやさしい水田作り
	B-4 NPO 法人瀬田川リバプレ隊	高橋川	保育園等との連携による河川清掃活動
テーブルC	C-1 滋賀県立甲南高等学校総合学科バイオとかがく系列	杣川	こどもに川の楽しさや生き物のすばらしさを感じてもらいながら、川と親しむ活動
	C-2 釣り人による清掃活動	瀬田川・琵琶湖	釣り人(と協働)による清掃活動
	C-3 滋賀県教育委員会事務局教育総務課企画室	琵琶湖全域	学習船「うみのこ」新船建造のためのクラウドファンディング
	C-4 NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	琵琶湖南湖全域、瀬田川、東近江市伊庭内湖、米原市蓮池、高島市、彦根市、竹生島	外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と広報活動
	計	13 団体	

5. テーブル別各団体活動位置図

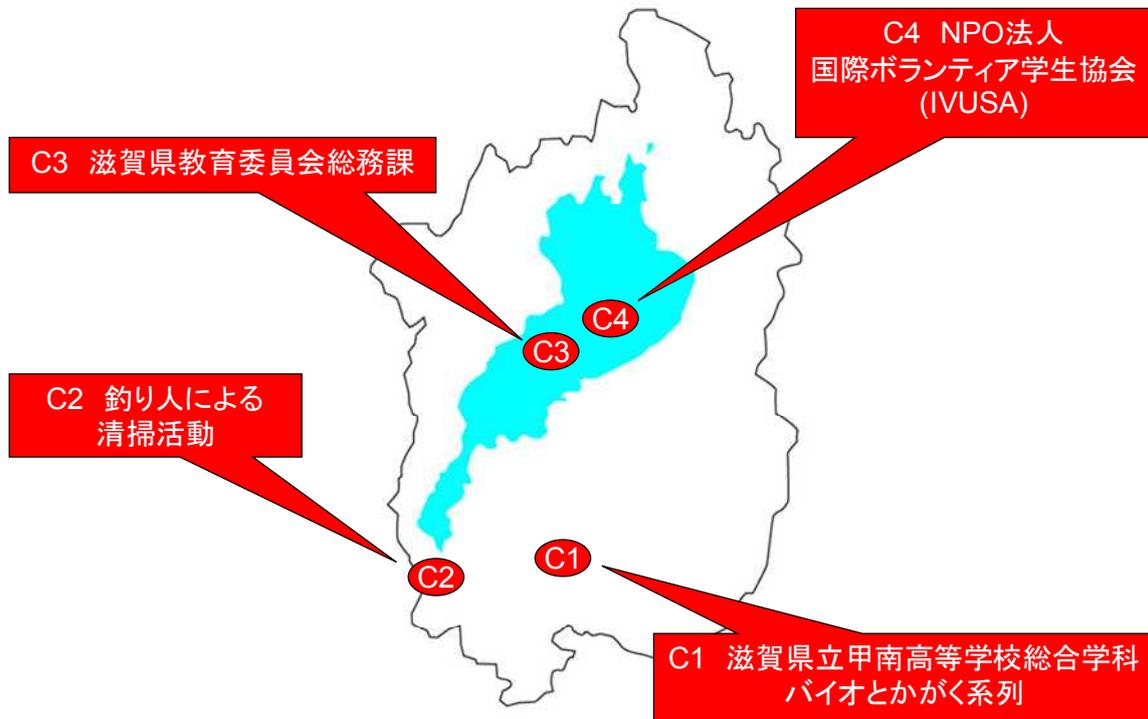
テーブル A



テーブル B



テーブル C



6. テーブル選考 選考員プロフィール（五十音順）

テーブルA

（テーブル・コーディネーター）



（選考員）

さとうひさる / NPO 法人 アート・プランまぜまぜ理事長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがつなぐ記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。

高田 拓朗（たかだ たくろう） / 水と文化研究会



三重県（伊賀）生まれ。琵琶湖に魅せられて、「琵琶湖のそばで暮らしたい」と、これまでに高島市（新旭・高島）大津市（坂本）草津市と移り住み、そろそろどこかに落ち着く予定。

学生時代から県内各地で水と人びとのかかわりを学ぶ。自身のテーマは、地域の元気を、子どもたちがつないでいく手立て作り。そのため様々な活動に参加させてもらいながら模索中・・・週末はカヤックに乗って琵琶湖からぼーと山や里を見ていたい。

辻博子（つじ ひろこ） / （一社）滋賀グリーン購入ネットワーク（滋賀 GPN）事務局長（MLF）



新潟県生まれ。滋賀 GPN の活動を通して、環境に配慮した消費行動『グリーン購入』を事業者や市民に広げています。グリーン購入には「環境に配慮した商品・サービスを買う」だけでなく「環境保全に熱心な事業者から買う」という意味もあるので、そうした熱心な事業者さんの活動を応援し、滋賀県産の環境配慮商品の市場を拡大するにはどうすれば良いか、日々考えています。

また、東日本大震災被災地との絆づくりの「近江ひまわりプロジェクト」や「地域エネルギー研究会」としても活動しています。

辻 光浩（つじ みつひろ） / 「奥村堤」の会 広報副部長

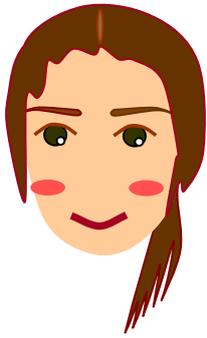


滋賀県東近江市、愛知川沿い在住。滋賀県職員。

子どもの頃から愛知川をフィールドに活動。地域住民で構成する『「奥村堤」の会』広報副部長。年5回、愛知川堤防の清掃・点検を実施し、川の中から川の外を見て気付いたことを発信しています。滋賀県庁入庁後は、主に河川や琵琶湖に関する計画策定に従事。土木技術系職員。

テーブルB

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)

菊池 玲奈(きくち れいな) / 結・社会デザイン事務所

横浜に生まれ、自然やいきものとのふれあいに憧れながら育つ。大学、OL時代に、趣味の一人旅でさまざまな地域を訪ねる中で、都会でイメージする「田舎の暮らし」と現実に大きなギャップがあることに気づき、NPO職員や大学の研究員などをしながら、その課題の解決に携わる。

さまざまな人やモノをつないで新しい価値観を育て、人も生きものも笑顔で生きていける社会を作っていけたら、との想いをこめて、2009年「結・社会デザイン事務所」を起業。

田中 秀子(たなか ひでこ) /

水郷水都全国会議共同代表・筑後川水問題研究会

福岡県生まれ、原田正純先生(水俣病)との出会いや広松伝さん達との筑水研活動(1978年～)、から不条理には楯突きつつ、命にとって本当に大切なものを学ぶ。

莫大な予算をつぎ込みながらも増大する災害に対し、干満差6mの有明海・佐賀平野の伝統的治水技術(減災の知恵)で上手にあきらめる(溢れさせる)流域治水を発信中。

国交省を退職し、「心を耕す鋤」となるよう録音図書の制作を始めました。言い訳しながら、細々かつ大胆に活動をしている。

藤田 知丈(ふじた ともたけ) / 暮らシフト研究所(MLF)

島根県八雲村、ホタルやカワセミが飛び交う意宇川沿い(中海の源流域)の家で川ガキ・山ガキとして育つ。大学時代にびわ湖と出逢い、そのまま滋賀に定住。建設コンサル、指定管理、NPO等の仕事を経て独立し、姉川源流の古民家に移住して「暮らシフト研究所」を設立。得意分野は情報デザイン、地域プロデュース、映像製作など。

マザーレイクフォーラム運営委員、東草野まちづくり懇話会事務局、NPO法人碧いびわ湖理事ほか。

南 隆雄(みなみ たかお) / NPO法人近畿水の塾 理事

1964年大阪市生まれ。1987年4月に衛生工学職として大阪府に入庁後、水質保全、化学物質対策、温暖化対策など主に環境行政を担当。2011年度から2年間滋賀県(関西広域連合広域環境保全局)に出向。現在、大阪府危機管理室で産業保安行政を担当。

水質保全を担当している時の縁でNPOに参加、また、気ままなボランティアとして、大阪府貝塚市にある自然遊学館の“トンボの池”など自然生態園の管理を手伝ったりしています。



テーブルC

(テーブル・コーディネーター)

中野 隆弘 (なかの たかひろ) / びわ湖エコアイデア倶楽部 (MLF)



滋賀県大津市生まれ。小さな頃から川や山に行くのが大好きでボーイスカウトで今も活動する。2008年に勤務先有志が立ち上げた市民団体“びわ湖エコアイデア倶楽部”に、こどもエコクラブのサポーターとして参加、翌年から事務局兼サポーターとして体験活動の企画・運営や地域の子どもたちとワークショップのファシリテーターにも挑戦。自然体験を通して出会う、子どもたちの“つぶやき”に学ばせてもらっています。

(選考員)

植田 潤 (うえだ じゅん) / 日本野鳥の会滋賀支部保護研究部長



京都市生まれ、現在、湖北野鳥センター／琵琶湖水鳥・湿地センターで勤務(2008年～)の傍ら、日本野鳥の会滋賀支部保護研究部長として、湖北の野鳥に関わる琵琶湖や湿地を場として、地域の子供たちとの一緒に観察会を行ったり、標識調査によって得られる情報から湿地環境の意義を明らかにして湿地保全につながっている研究など活動をしています。

正阿彌 崇子 (しょうあみ たかこ) / NPO 法人とよなか市民環境会議 アジェンダ 21 事務局次長



兵庫県在住。環境学習やESD(持続可能な開発のための教育)といった、多様な人たちがみんなで成長できる場を作るため、近畿や海外などで活動している。2012年度に、琵琶湖博物館環境学習センターで勤務し、滋賀だいい好き人間。現在の環境や社会の有り様に危機感を抱きながら、日々、たくさんの人と共に仕事や活動に邁進している。

野崎 信宏 (のざき のぶひろ) / 流域政策局副局長



1961年滋賀県大津市生まれ。84年土木技術職として滋賀県に入庁。以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。

7. 全体討論 選考員



朴 恵淑（ぱく けいしゅく）／
三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授
三重大学地域 ECO システム研究センター長

1954 年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



村上 悟（むらかみ さとる）／NPO 法人碧いびわ湖代表理事

滋賀県余呉町（現長浜市）生まれ。2009 年（平成 21 年）より特定非営利活動法人碧いびわ湖代表理事。

水環境、ダムと過疎、地球温暖化と原発などの問題に取り組んできた経験に基づき、持続可能で災害にも強い自立循環の暮らしづくり、住まいづくり、地域づくりに取り組んでいる。その一環として雨水貯留の普及と技術開発に力を注いでいる。



安居 長敏（やすい ながとし）／滋賀学園中学・高等学校 校長

滋賀県彦根市生まれ。愛知川と琵琶湖を遊び場に育つ。20 年間の教員生活後、2つのコミュニティ FM 開局・運営に携わる。PC サポート業を兼務しながら、4 年間フリーランス。その後、再び教員に戻り、現在に至る。

水辺との深い関わりは、琵琶湖河川レンジャーとして活動し始めた 2012 年 1 月から。仕事の関係で現在はレンジャーを外れたが、生活と水環境について幅広く模索中。

8. 総合コーディネーター・コメンテーター&実行委員会

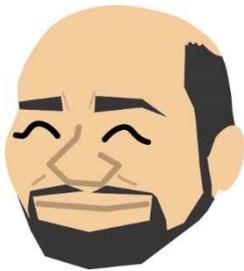
(総合コーディネーター)



中谷 恵剛 (なかにに けいごう) / NPO法人瀬田川リハブレ隊

瀬田の生まれ。川が好き。味噌汁といえばシジミ、モロコの素焼き+酢味噌またはショウガ醤油、ギギの蒲焼き、鮎の塩焼き、フナズシなどなど食いしん坊なことも、水辺の環境を守る第1歩かなんてことを思いつつ、水を知るには上流からと言うことで源流付近(源流までは体力的に厳しい)の探訪などをしております。

(コメンテーター)



新川 達郎 (にいかわ たつろう) /

同志社大学大学院 総合政策科学研究科教授・政策学部教授

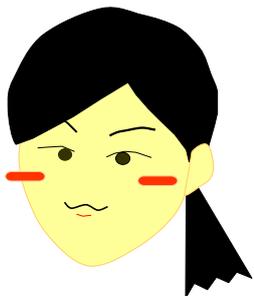
水・環境ネット東北、カップ研究会、近畿水の塾、全国水環境交流会を始めたくさんの方に遊んでもらっています。主に20世紀は東北、21世紀は関西の水辺で暮らしてきました。今は京都の鴨川が身近です。川と水の縁は、一見流れてしまうようですが、実はどこでもつながってしまっていて、改めて奥深いものだと感じています。同志社大学で教育研究にあたっていますが、滋賀県の実環境や琵琶湖レジャー利用の審議会にも関わってきました。

(実行委員会)

北井 香 (きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活のこと。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事していました。

県内の農山村を中心にいくつかの活動にスタッフなどの立場に関わっています。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組みを応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。



(流域治水検討委員会 住民会議)
実行委員会



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



楠黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

9. 参加団体活動概要

A-1 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

活動のキーワード

- ① ビワマス ② 産卵床造成・魚道設置 ③ 多主体協働

発表内容

野洲市を流れる家棟川。2011年以降、市民が中心になって上流～下流における魚類等の調査を行ったところ、在来魚が22種も確認される県下随一の豊かな河川であることが分かりました。

しかしその生息環境は十分であるとはいえず、とくに秋期に遡上するビワマスにとっては厳しい状況にあることも分かりました。

そこで2015年、市民・行政・専門家・企業から構成されるプロジェクトを結成。専門家の指導も得ながら、ビワマスの産卵床造成や落差工における魚道設置、違法採捕の監視等に取り組んでいます。

活動中の川や水辺の名称

家棟川

活動内容

ビワマスが遡上・産卵・繁殖できる環境の再生



よいとこ探しキーワード メモ！

A-2 琵琶湖河川レンジャー

活動のキーワード

①地域と川との関わり、記憶、思い ②行政との連携 ③コーディネート

発表内容

地域と川との関わりを考え、これからの川づくりに向けて、「地域の記憶掘り起こし」と「川への思い」をテーマに、過去と現在の視点から地域と川との関わりを記録し、伝えていく活動をしています。

北村は、川と地域がどのように関わってきたのかを残していくために、継続して昔の風景写真の情報を集めたり、ヒアリングをしています。眞田は、川を利用している現在の視点を集めています。川とのよりよい関係性の構築を目指して、過去から未来へとつなぐ活動を、瀬田川を中心に日々実施しています。

活動中の川や水辺の名称

瀬田川、琵琶湖

活動内容

琵琶湖河川レンジャーは、琵琶湖やその周辺で、住民のみなさんが河川に関心を持てるような取り組みをしたり



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

- ① Restore ② ヨシ帯の質 ③ ドローン

発表内容

私たちは野洲川の生物の住処としてヨシ帯の面積調査・水生生物調査を継続的に行ってきています。昨年もそのヨシ帯における調査を報告させていただきました。そのとき、「そのヨシ帯の質はどうか？」という問いかけがあり、昨年度不十分であったので今年度はそのヨシ帯の質に関する報告を中心にさせていただきます。

今年度のその質的調査には「ドローン」を使用。ドローンの可能性にも触れたいと考えています。

今年度も琵琶湖河川事務所・河川レンジャーの全面協力のもと、この発表が行えることに感謝すると共に、産官学で未来を語る発表を目指して頑張っていきます。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 野洲川（淀川水系）

活動内容

野洲川におけるヨシ帯の質的調査活動・環境保全

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①購入型クラウドファンディング ②流域 ③共感

発表内容

◆流域を支えるクラウドファンディング「カワサポ」の事例紹介◆

各流域には素晴らしい活動をしている団体が数多くあります。
しかし必ずついてまわるのは「お金」の問題。熱意や知識、ノウハウもあるのに、お金がなくてプロジェクトが実施できない！！そんなお悩みの解決を少しでもお手伝いできればということで「カワサポ」を運営しております。

①天若湖アートプロジェクト実行委員会 様
団体への共感を呼びかけ、団体支援をしていただく事例

②天竜川・河輪「水辺の楽校」宵祭り実行委員会 様
個人だけでなく、企業向けの窓口を設置し支援を募る事例
市町村の枠を超えて国の機関を巻き込んでいく事例
他

※状況により発表事例を変える場合もありますので、ご了承下さい。

活動内容

流域にかかわる活動をしている団体の中間支援



よいとこ探しキーワード メモ！

A-5 大見新村プロジェクト

活動のキーワード

①安曇川源流域の廃村での活動 ②筏流しの神さま・シコブチさんを通じた集落交流 ③豪雨被害

発表内容

大見新村プロジェクト

京都市左京区大原大見町。京都市街地から車で約 60 分、廃村状態にあった大見に移り住んだ一人の青年とともに ” 新しい村 ” をつくるプロジェクトです。大見は琵琶湖に流れ込む安曇川の源流域の 1 つで、鯖街道（鯖の道）最古・最短ルート『針畑越え』の経由地でもあります。

安曇川流域に十数社点在する、筏流しの神さま・シコブチさんを祀った神社が大見にもありましたが 2013 年 9 月、台風 18 号の豪雨により神社が川へ半倒壊。その後、神社の解体、シコブチさんをめぐるツアーや源流を辿るハイキングをたまに実施しています。

他、メンバーの関心をもとに『大見という環境から出来ること』として開墾・古民家改修・皮なめしの活動・集落交流を紹介します。

活動中の川や水辺の名称

大見川（安曇川源流域）

活動内容

源流域での廃村活用

よいとこ探しキーワード メモ！



B-1 滋賀県長浜土木事務所河川砂防課

活動のキーワード

①ビワマス ②魚道 ③設計

発表内容

長浜土木事務所では、2011年度に発足した米原市天野川ビワマス遡上プロジェクトの一環として、2012年度から2016年度にかけてビワマスの遡上が困難とされる天野川の河川構造物に棚田式魚道の設置を進めている。本発表においては、これまでの魚道の設置の成果について報告する。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 天野川（淀川水系）

活動内容

よいとこ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

①環境学習

②郷土料理

③食文化

発表内容

郷土料理を伝承していくには、実際に作っておいしさを実感することが大切です。わたしたちは、農家さんや漁師さんや郷土料理の専門家さんに教わりながら、郷土料理を作ることで、その魅力に気づきました。そして、自主的に実行委員会を組織して、郷土料理の魅力を伝えようと「滋賀の郷土料理博物館」を作りました。活動を通して、郷土料理やその食材を育む琵琶湖や滋賀の大地、伝承してきた人々に愛着や誇りを深めることができました。郷土料理の学習を通して学んだこと・感じたことを劇にして発表します。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖

活動内容

滋賀の郷土料理学習

よいとこ探しキーワード メモ！



B-3 総合地球環境学研究所栄養循環プロジェクト

活動のキーワード

- ①水田 ②いきもの ③栄養循環

発表内容

私たち栄養循環プロジェクトは、いきものが溢れる豊かな川づくりのため、人はどのように川と関わっていけばいいのか、ということを探るため、様々な取り組みをしています。その中でも今回は、川にやさしい水田づくりについて発表させていただきます。水田と川は深い関係があり、水田から流れ出ている栄養分が多すぎると自然のバランスが崩れてしまい、川や湖のいきものが減ったりしてしまいます。そこで私たちは、田ごし水田という昔ながらの農法が水田から流れ出る栄養分にどんな影響を与えるかについて調べたので、その結果を発表します。

活動中の川や水辺の名称

野洲川・佐治川・滋賀県甲賀市小佐治地区

活動内容

川にやさしい水田作り



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

発表内容

10年目最後の体験発表会です。この一年、発表を意識して取り組んで参りました。

1. 毎月回収されたゴミはゴミコールセンターで引き取りに来て貰い、この1年間も雨で中止になることはありませんでした。2. 瀬田南小学校5年生によるポイ捨て禁止のポスターを〇〇河川敷フェンスに取り付けました。3. 近くの保育園園児による河川内のゴミ回収作業の実施。4. 河川壁面雑木処理を大津土木事務所砂防課に依頼、綺麗に整備して頂きました。

活動中の川や水辺の名称

大津市 高橋川

活動内容

川や浜、内湖などでフィールドワークを行い、発見や気づきを促す授業を6年間実施しています。

よいところ探しキーワード メモ！



活動のキーワード

- ①課題研究の活用 ②地域の活動団体との連携 ③子どもが川を楽しみ親しめる活動

発表内容

昨年の発表した1年生での環境学習だけでなく、杣川と親しむ会と連携して川と親しむ活動に取り組み、そのアンケート結果などから、外来魚の透明骨格標本や水棲昆虫の樹脂封入標本など河川環境に興味を持ち、お土産や展示、河川学習で使える標本の作製について、課題研究の時間を使って検討した。今回は杣川と親しむ会と連携した活動の概要と課題研究で取り組んだ内容について発表したい。

活動中の川や水辺の名称

杣川 甲賀市甲南町寺庄付近

活動内容

こどもに川の楽しさや生き物のすばらしさを感じてもらいながら、川と親しむ活動。

よいところ探しキーワード メモ！



C-2 釣り人による清掃活動

活動のキーワード

①釣り人 ②地元の方々や訪れる人々 ③対話・協働・コミュニケーション

発表内容

釣り人のみならず、釣り場周辺の住民の方々や訪れる人々に我々の清掃活動を実際に行なっている姿を目にしてもらう事により釣り人に対するイメージの変容、そして対話も含め協働、コミュニケーションのきっかけの第一歩になると考えています。

活動中の川や水辺の名称

一級河川 琵琶湖 瀬田川

活動内容

釣り人(と協働)による清掃活動



よいとこ探しキーワード メモ！

活動のキーワード

- ①クラウドファンディング ②学習船「うみのこ」 ③びわ湖フローティングスクール

発表内容

学習船「うみのこ」は、滋賀県の小学5年生全員が乗船し、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかかわる力をはぐくむことを目的に、1泊2日の体験学習（「びわ湖フローティングスクール」）に取り組んでいます。

現在の「うみのこ」は、昭和58年に就航し、これまでに約52万人の児童が乗船してきました。しかし、長年の航海による老朽化がみられるため、新船の建造を進めています。

県民のみなさまをはじめとする多くの方々と一緒に、新しい「うみのこ」をつくっていくために、平成29年1月4日から2月28日までの期間限定で、滋賀県初の“クラウドファンディング”による寄附金を募集している取組をアピールしたいと思います。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖全域

活動内容

学習船「うみのこ」新船建造のためのクラウドファンディング

よいとこ探しキーワード メモ！



C-4 NPO 法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)

活動のキーワード

①特定外来生物オオバナミズキンバイ ②学生の力と多様な主体との協働 ③早期発見・早期除去

発表内容

特定外来水草オオバナミズキンバイは、生育面積が6年間で約2000倍に拡大する強い繁殖力を持っています。その強い繁殖力により、生態系や水質に悪影響を与え、漁業を妨げるため、地域一体となった早急な対策が求められています。

IVUSAは、2013年より活動開始し、地域の方々と協力しながら、オオバナミズキンバイの琵琶湖からの完全除去を目指しています。昨年夏には、約400人の学生が集まり、南湖全域での大規模除去活動を行い、855ヶ所、除去面積5820㎡、総重量49tの特定外来水草を除去しました。

また、広報活動としてバリ島で行われた世界湖沼会議に参加するなど、国内外問わず外来水草や協働による取り組みについて知ってもらうための活動も行っています。

活動中の川や水辺の名称

琵琶湖南湖全域、瀬田川、東近江市伊庭内湖、米原市蓮池、高島市、彦根市、竹生島

活動内容

外来水草オオバナミズキンバイの除去活動と広報活動



よいところ探しキーワード メモ！

10. 日本一のびわ湖を守るご当地キャラ三人衆（五十音順）



あゆむ / マザーレイクフォーラムイメージキャラクター

マザーレイクを旅するさすらいの鮎。のんびり屋で休憩が多い。夢は川にのぼって大きくなることだが、びわ湖で小さく育つのも悪くないと思いつている。好きなものは石に付いた藻。苦手なものは泥



げっすい〜 / 琵琶湖流域下水道イメージキャラクター

流域下水道を守る謎の妖精。水をきれいにすることが好きで、琵琶湖から日本中へと旅して回っています。

泳ぐことや掃除・洗濯が得意です。苦手なものはてんぷら油。



ちっすいくん / 流域治水政策イメージキャラクター

流域治水の申し子。腰についている4つの玉は、水害から身を守るための4つのアイテムで、「ながす」・「ためる」・「そなえる」・「とどめる」と呼んでいます。

だいたいホワッと、たまにはピリッと、みんなと一緒に考えてみんなを見守る水防災の妖精。

水防災の妖精だけに、大好きなのは耐水性の気持ちに切り替わる瞬間の眩しさ。いまは扁平でも、出すとこ出して魅惑のマーメイドになるのが夢。

MEMO 欄

LINE ご当地スタンプ できました！



フォーラムマザーレイク

日本一の琵琶湖を守るご当地
キャラ大集合♪

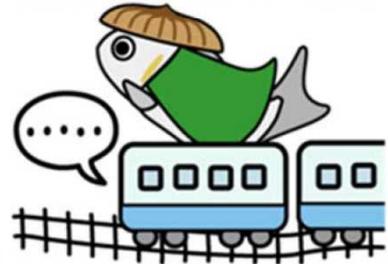
マザーレイクを旅するさすらいの鮎「あゆむ」、流域治水の申し子「ちっすいくん」、滋賀の流域下水道を守る謎の妖精「ちっすい〜」の3人組参上！☆We Love 滋賀・びわ湖会

¥120

プレゼントする

購入する

電車 止まっている



「あゆむ」「げっすい〜」「ちっすいくん」
滋賀県のゆるキャラ3体を集めたLINEスタンプが
できました！



マザーレイクフォーラム運営委員会（琵琶湖政策課）、下水道課、流域治水政策室が創り出した超マイナー滋賀県ゆるキャラたちがあなたのLINEで使えます！

価格は120円！



しかも、売り上げはマザーレイクフォーラム基金への寄付！



琵琶湖のために活動する人たちの資金として活用されます！

ぜひ入手してね！

